

「まずは自分で工夫する」。創業者の理念と「見える化」がマッチ



省エネポイント

- 1 天井取り付けによる空調の効率化
- 2 空調稼働前の換気
- 3 電力使用状況を確認し、社員へ周知

導入効果

契約電力 **37.3%** ↓DOWN

→ 252kW (2021年)
→ 158kW (2023年)

使用電力量 **33.9%** ↓DOWN

→ 304,050 kWh (2020年5月～2021年4月)
→ 200,679 kWh (2023年5月～2024年4月)

社員の背中を押してくれた「見える化」に感謝

大阪府和泉市にある泉陽工業株式会社では医療器具や釣りにといった精密部品の切削加工や組み立てを行っている。電力供給を受けていた新電力の事業撤退がきっかけで日本テクノに切り換えSMART CLOCKを導入。同社では使用電力の大部分を空調が占めていたが、電気の「見える化」によるメリットについて深く考えてはなかった。しかし創業者である先代社長の経営理念にある「三方よし」「コツコツ積み上げる努力」といった精神と電気の「見える化」がマッチ。努力と工夫で電気を効率よく使い、社員一丸となり使用電力量を抑えている。



定期的担当から省エネについてアドバイスを受ける

自分たちで工夫することが社員の自信に

主な作業場が社屋の2階にあり、夏場は特に室温が上昇しやすいうえ、階段の天井が吹き抜けて場内とつながっているため冷気が階段下へ流れていってしまう。そこで社員自ら天井を設計・設置し冷気の流出を防ぐことに成功した。社員からも空調の効きが良くなったという声が上がっている。「風通しがよい建物なので朝一番に出社する私が窓を全開にして換気します。これで室温が1℃下がるので、それから空調を入れていきます」と話すのは取締役の吉野友基氏。電気や資源を減らすことはありがたいことだという意識が社員に芽ばえ、扇風機を修理して使ったり、室外機に遮光板を取り付け空調の負荷を抑えたりと自ら行動している。



以前は天井がなく、ここから作業場内の冷気が流れ出ていた

社風を活かして次の取り組みへ

以前から社員の電気の消し忘れはなかったそうだが、空調稼働のタイミングや警報時の対応のルールづくりを進めていくうちに意識がさらに変わってきたという。環境改善担当の野村佳祐氏は日ごとの電力使用状況が確認できるデマンド閲覧サービスに定期的アクセスしCO₂排出量も確認、レポートを作成し社員に周知する。今後はピークだけでなく、季節ごとに設定値を見直し年間を通した使用電力量の低減をめざすほか、井戸水の活用など新たなステップへ挑む。



警報時は館内放送で空調の温度調整を呼びかける



COMMENT

取締役 吉野 友基氏(右) / 業務改善課 野村 佳祐氏(左)

単に電気料金を抑えるだけではなく、環境負荷低減に向け努力をする姿勢は対外的な印象にも影響します。最近は環境への取り組みを重視する取引先も多く、CO₂排出量の削減を求められることもあるので電気の「見える化」は企業として生き残っていくためには必要不可欠なサービスといえます。

CORPORATE PROFILE

代表者 代表取締役社長 野村 英嗣
事業内容 精密部品切削加工、および組み立て
従業員数 62名(2024年7月現在)
所在地 大阪府和泉市

導入時期 2022年6月